

## ■第92回定時総会開催 2025年度事業実績・ 2026年度事業計画など承認



## ■自民党自動車議連が 総会・懇談会を開催 新会長に西村康稔氏が就任



## ■自動車総連とも 懇談会開催 自動車会議所として 初めての意見交換



※写真をクリックすると詳細記事がご覧になれます

## [CONTENTS] <2026年4月～6月>

### 4月

#### ■4・5日 交通安全 アクション2026 14



#### ■16日 自動車議連総会・懇談会 10



#### ■16日 自動車総連懇談会 12

#### ■25・26日 サーキット来場者の 通信環境改善へ実証開始 13

### 5月

#### ■15日 COMITプロジェクトの キックオフミーティング 18



#### ■25日 第92回定時総会 ・ 懇親会 3

#### ■28日 第314回会員研修会 19



### 6月

#### ■1日～ 「不正改造車を 排除する運動」強化月間 20



#### ■5～7日 スーパー耐久シリーズ第3戦で サーキット向けネットワークの 実証実験開始 21

### TOPICS

#### ■日本自動車会議所 ・ 自転車安全利用TOKYOキャンペーン 22 ・ 日本自動車会議所人事 22 ・ 飲酒運転させないTOKYOキャンペーン 23

#### ■東京都自動車会議所 ・ 通常総会と懇親会を開催 23

#### ■その他 ・ 春の叙勲 23 ・ 日本自動車会館「くるまプラザ」 2027年1月末まで休業 24 ・ 第3回「CARS and COFFEE」を開催 24

※各項目をクリックすると詳細記事がご覧になります。

## 第92回定時総会開催

# 2025年度事業実績・2026年度事業計画など3議案を承認

## 続く理事会で豊田章男会長を再任し、新たに4氏が副会長に就任

日本自動車会議所は5月25日、東京・江東区のトヨタアリーナ東京で第92回定時総会を開催し、「2025年度事業実績・2026年度事業計画」、「2025年度決算・2026年度予算」、「任期満了に伴う理事・監事選任」の3議案が審議され、いずれも原案通り承認されました。審議に先立って、まず豊田章男会長が挨拶し、会員はじめ関係団体・企業からの、会議所の活動に対する協力等に感謝の言葉を述べました。続いて事務局から3議案について説明が行われ、審議入りしました。

今回は理事ならびに監事の改選期に当たり、総会では理事5氏が退任。代わって、日本自動車工業会会長の佐藤恒治氏、日本自動車販売協会連合会会長の高田靖久氏、全日本トラック協会会長の寺岡洋一氏、日本自動車部品工業会会長の齋藤克巳氏、会議所の細野和美参事の5氏が新たに理事に就任しました。また、監事3氏は再任となりました。

続く第225回理事会では、豊田会長が再任されるとともに、副会長8氏が選定されました。このうち佐藤氏、高田氏、寺岡氏、齋藤氏の4氏が新たに副会



事業計画など3議案が審議された第92回定時総会。写真円内は豊田章男会長

長に選定されました。また、退任した事務局担当の畠山太作常務理事の後任として、細野参事が常務理事に選定されました。

なお、総会・理事会の議案については、第10回運営審議委員会（委員長：松永明日本自動車工業会副会長）および第224回理事会においてそれぞれ書面審議のうえ、5月上旬までに原案通り承認されています。

総会・理事会後には懇親会が開催され、会員はじめ国会議員、関係省庁、関係団体・企業などから約380名の皆さまにご出席いただきました。

懇親会では、まず主催者を代表して豊田会長が挨拶しました。豊田会長は、「クルマをニッポンの文化に！」と掲げた、今年の総会懇親会での自身の挨拶に触れ、「メーカーの壁や業界の壁をなくしていくことが、クルマを文化にしていく上ではすごく大事なことだと感じています」と述べました。そして、自分のやりたい事は「現場で頑張っている誰かのために」であり、日本自動車会議所が「自動車関連総合団体」であることから、「自動車に関連するあらゆる現場に、私はスポットライトを当てていきたい」として、「いろいろなところに光を当てていければ、きっとクルマがニッポンの文化に近づいていくことができるのではないか」との展望を示しました。

続いて、赤澤亮正経済産業大臣、酒井庸行国土交通副大臣が来賓として挨拶。その後、豊田会長はじめ、当日出席した佐藤副会長、高田副会長、齋藤副会長、喜谷辰夫副会長（日本自動車整備振興会連合会会長）、坂口正芳副会長（日本自動車連盟会長）、赤間俊一理事（全国軽自動車協会連合会会長）、ゲ

## 一般社団法人日本自動車会議所 役員名簿 2026年5月25日現在（順不同、敬称略）

|          |           |                                |         |
|----------|-----------|--------------------------------|---------|
| 〔会 長〕    | 豊 田 章 男   | 代表理事                           |         |
| 〔副 会 長〕  | 佐 藤 恒 治   | （一社）日本自動車工業会                   | 会 長《新任》 |
|          | 高 田 靖 久   | （一社）日本自動車販売協会連合会               | 会 長《新任》 |
|          | 寺 岡 洋 一   | （公社）全日本トラック協会                  | 会 長《新任》 |
|          | 清 水 一 郎   | （公社）日本バス協会                     | 会 長     |
|          | 川 鍋 一 朗   | （一社）全国ハイヤー・タクシー連合会             | 会 長     |
|          | 齋 藤 克 巳   | （一社）日本自動車部品工業会                 | 会 長《新任》 |
|          | 喜 谷 辰 夫   | （一社）日本自動車整備振興会連合会              | 会 長     |
|          | 坂 口 正 芳   | （一社）日本自動車連盟                    | 会 長     |
| 〔理 事〕    | 赤 間 俊 一   | （一社）全国軽自動車協会連合会                | 会 長     |
|          | ゲルティンガー 剛 | 日本自動車輸入組合                      | 理事長     |
|          | 塚 田 長 志   | （一社）日本中古自動車販売協会連合会             | 会 長     |
| 〔専務理事〕   | 島 崎 豊     | 事務局担当・代表理事                     |         |
| 〔常務理事〕   | 細 野 和 美   | 事務局担当                          | 《新任》    |
| 〔理事(常勤)〕 | 橋 本 勝 也   | 事務局担当                          |         |
| 〔監 事〕    | 安 原 敬 裕   | （一社）全国自動車標板協議会                 | 会 長     |
|          | 中 村 知 美   | (株)SUBARU                      | 取締役     |
|          | 原 典 之     | MS&AD インシュアランス グループホールディングス(株) | 取締役会長   |

ルティンガー剛理事（日本自動車輸入組合理事長）、会議所の島崎豊専務理事の新体制のメンバーが登壇

し、新体制を代表して坂口副会長の「乾杯」の発声で懇談・懇親の輪が広がりました。

## 2026年度定時総会懇親会 ご挨拶

### ◇豊田 章男会長

バスケットをはじめとしたスポーツの聖地、「トヨタアリーナ東京」での（総会懇親会の）開催ということもあり、モータースポーツの話からさせていただければと思います。



昨日、私個人のレーシングチームが、設立6目にしてようやく初優勝することができました。トップドライバーたちが集まる、日本で一番スピードの速いレースです。乗っていたのは、福住仁嶺という20歳代のドライバーです。残念ながら、昨日はレースのあった鈴鹿サーキットには行けず、中継を見ておりました。

今回の初優勝で私が一番感動したのは、福住はトヨタのチームの選手なのに、真っ先に駆け寄ってくれたのは、岩佐歩夢や太田格之進、牧野任祐といったホンダのドライバーたちでした。もともと福住もホンダのドライバーですが、ホンダの彼らが本当に嬉しそうに福住を祝福していました。アスリートの世界にはメーカーの壁はなく、純粋に讃え合っている——。なぜか、すごく嬉しい気持ちになりました。

1年前、この総会懇親会の場で「クルマをニッポンの文化に！」と掲げましたが、メーカーの壁や業界の壁をなくしていくことが、クルマを文化にしていくなかでとても大切なことだと感じています。レ

ース優勝の余韻に浸っていただけましたので、冒頭、そんな話からさせていただきました。

さて、この1年を振り返りますと、日本自動車会議所でアメリカのレース、NASCARを招致したこともありました。

このイベントは、ジョージ・グラス駐日米大使にお会いする機会をいただいたことがきっかけでした。グラス駐日大使もクルマが大好きということで話が盛り上がったことから、「モータースポーツを軸に日米文化交流をしよう」と意気投合し実現したものです。イベント当日は、大使にもサーキットにお越しいただくことができ、満面の笑顔になっていただけました。スポーツや文化を入り口にすると、政治・経済とは少し離れて、笑顔で会話ができたといいことだと思います。

こんなにモータースポーツ関連の話をしていると、「豊田章男が自動車会議所でやりたいことばかりやっている」と言われてしまうようにも思っております。もしかしたら、そうかもしれません。しかし、私のやりたいことはブレません。私のやりたいことは、日本のためだったり、自動車業界のためだったり、現場で頑張っている誰かのためだったり、必ず、自分ではなく、誰かのためにやることだと決めております。

おかげさまで、自動車会議所には、

部品も含めた製造分野、輸入車や中古車も含めた販売分野、整備分野、トラック・バス・タクシーといった運行分野、そしてユーザー団体であるJAFやモータースポーツに関わる多くの団体が会員になってくださいました。こうした自動車に関連するあらゆる現場に、私はスポットライトを当てていきたいと思っております。

私の役割は「照明さん」。こんな役割が、私が目指す自動車会議所会長の姿ではないかと、改めて思っております。「クルマ好きのおじさん」が、自動車会議所会長という役割を与えていただいて、いろいろなところに光を当てていくことができれば、きっとクルマがニッポンの文化に近づいていけるのではないかと考えております。

皆さま改めまして、自動車会議所をよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。



壇上で挨拶をする豊田章男会長（左）

## ◇赤澤 亮正・経済産業大臣

本日は、日本自動車会議所の定時総会懇親会が盛大に執り行われますこと、誠におめでとうございます。豊田会長をはじめ、自動車業界の皆さまが日本経済を支え、自動車産業の発展に日々ご尽力をいただいていますことに、改めて感謝いたします。



さて、米中による自国最優先の産業政策が展開される中、国内産業が極力、影響を受けないよう、官民がともに取り組む必要があります。そういう時代になりました。われわれも産業政策を積極的に推進してまいります。

また、わが国は毎年5兆円を超える関税が課されるはずでしたが、日米合意により2兆円超の削減を果たし、国内の影響を緩和して他国に負けない、少なくともEUや韓国には負けない貿易の条件や予見可能性を確保できました。

しかし、依然、一定の関税率が残っています。資金繰支援や生産性向上対策など、影響緩和に取り組んでまいります。原油や石油製品は、備蓄放出や代替調達で、日本全体として必要な量を確保しております。一部で生じる供給の偏りや、融通の目詰まりも一つひとつ確実に解消していきます。

そういう意味では、豊田会長が率いるトヨタ自動車にも大変ご協力をいただいております。例えば、シンナーなどについても、目詰まり解消に大きな力をお借りしたところです。経産省としても、レアア

ースや半導体等の需要物資を特定国に依存しないよう、供給源の多角化や調達ルートの切り替えなどを支援してまいります。自動車業界としても、強靱なサプライチェーン構築の取り組みをお願いいたします。

自動車業界各社が、産業界全体の賃上げをリードしていただいたことにも感謝を申し上げます。価格転嫁や取引適正化に向けて、引き続きご協力をお願いいたします。高市内閣の成長戦略の“キモ”は、ご案内のとおり危機管理投資・成長投資です。核となる17分野は、重点投資を進めるべき先端技術に着目したものです。自動車に関連する技術は極めて幅広く、自動車産業は17分野の多くの分野にまたがる、わが国の産業の総合力を示す基幹産業です。先端技術への投資の成果を活用し、競争力強化につなげることを期待いたします。

GX、DXの大変革の中で、日本の自動車産業が各国市場の実態に合わせながら、EVのみならず、SUV、ハイブリッド車など多様な選択肢で勝ち抜いていくマルチパスウェイ戦略を進めるとともに、官民連携のもとデジタル投資を進めます。

特にAIトランスフォーメーションの推進が重要です。製造現場におけるAIのデータ基幹整備と実装、フィジカルAIの構築が、わが国の勝ち筋になります。自動車産業の強みを生かしたAI活用を政府もしっかりと後押しいたします。

今年度から環境性能割が廃止されました。ぜひ、国内市場の活性化につなげていただきたいと思います。来年度税制改正に向けて、業界の皆さまにもお力添えをいただければと思います。

また、豊田会長は「クルマを日本の文化に！」ということをおっしゃっておりますが、トヨタの力で、そして日本自動車会議所の会員団体の皆さまの力で、もう十分に自動車は日本の文化になっていると思います。そしてアジアを訪れると、私は誇りで胸がいっぱいになります。日本車がどれだけ走っているのでしょうか。アジア諸国を訪れときに、誇りで胸がいっぱいにならない、そういう日本国民は私はいないと思っています。

（日本の自動車メーカーは）よくここまで頑張ってきてくれました。電動車の流れあり、あるいはAIの流れありと、これからもいろいろと困難を乗り越えていかなければなりません。官民力を合わせて乗り越えてまいりたいと思いますし、わが国の基幹産業である自動車産業には、その力が必ずあると思っています。

さらに、日本の文化というよりは、すでにアジアの文化にもなっております。今後、ますます力を入れて、絶対に世界の文化にしていきたいと思います。私自身は、いつも「力を合わせて世界を変えよう」ということをキャッチフレーズに申し上げておりますが、ぜひ、豊田会長率いる日本自動車会議所の皆さまと力を合わせて、「クルマを世界の文化にしていきたい」、「その先頭にぜひ日本チームに立っていただきたい」、そのことを重ねて申し上げておきたいと思っています。

結びになりますが、日本自動車会議所と、本日出席の皆さまのますますのご健勝と、さらなる発展をご祈念申し上げまして、私のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

## ◇酒井 庸行・国土交通副大臣

本日、このトヨタアリーナ東京で挨拶をさせていただくことは、大変光栄なことだと感じている次第です。本来ならば、金子恭之大臣がここにお伺いしてご挨拶をさせていただくところですが、どうしてもお邪魔できないということですので、私から代わってご挨拶をさせていただきます。金子大臣からは、「皆さまにどうぞよろしく」とのことでした。



さて、豊田会長をはじめ、本日ご出席の皆さまには、国土交通省に対して大変なご理解とご協力を賜っておりますことに改めて厚く御礼を申し上げる次第です。ありがとうございます。

国土交通省におきましては、自動車をめぐる環境の変化に対応するため、安全で安心なクルマ社会の実現と、自動車関連産業のより一層の発展に向けて、さまざまな施策に取り組んでいるところです。

自動運転は、わが国が抱える交通空白や担い手不足の解決、さらには安全な自動車社会の実現に効果的なものです。また、わが国の自動車メーカーが、自動運転技術の実用化をリードするという観点からも、わが国にとって必要不可欠なものです。

国土交通省におきましては、自動運転の早期普及に向けて、本年1月に金子大臣を本部長として、自動運転社会実現本部を立ち上げたところです。1日も早い本格的な自動運転社会の実現に向けて、全力で取り組んでまいり所存です。

また、トラック・バス・タクシーでは、ドライバーの担い手不足が喫緊の課題となっています。早期の運賃改定や、賃上げの原資となる適正な運賃を受受できる取引環境の整備、人材確保の支援、働き方改革、DX等によって、生産性の向上や特定技能外国人の適正な受け入れ、担い手不足の解消等に取り組んでまいります。

さらに関係の皆さまには、交通空白解消に向けた取り組みについて、日頃よりご協力、ご尽力をいただき、誠にありがとうございます。今後とも金子大臣を本部長とする交通空白解消本部の下で、今まさに国会での審議が進められている改正地域交通法や、観光の足確保に向けた財政措置など、制度面、予算面の両輪でバス・タクシーの事業者の皆さまと連携をして、交通空白の解消の取り組みを全力で支援をしてまいります。

本年5月20日に、トラック中継輸送を促進するための中継輸送施設の整備促進等を目的とする「物流の効率化に関する法律の一部を改正する法律」が公表されました。同法に基づいて、各地において物流機能の維持・向上が図られるよう努めてまいります。

令和7年度の補正予算によって、自動車安全特別会計から一般会計に対する繰入金金の全額が繰り戻され、自動車安全特別会計の財政基盤が強化をされました。これを踏まえて、自賠法に基づいて自動車事故の被害者支援や事故防止に向けた施策をより一層充実させ、自己被害者等が安心して生活できる社会、事故のない社会の実現に取り

組んでまいりたいと思います。

貴会議所におかれましては、自動車ユーザーや販売店の皆さまの利便を大きく向上させる取り組みである、自動車登録簡素化プロジェクトを推進していただき、感謝を申し上げる次第です。当省としましても、十分に連携をしながら推進してまいります。

また、ナンバープレートの交付業務を着実に実施していただき、お礼申し上げます。本年4月には、新たな「図柄ナンバー」の募集を開始しました。来年3月に開幕する横浜グリーンエキスポ（国際園芸博覧会）の特別仕様ナンバーなど、図柄ナンバープレートのさらなる普及促進に取り組んでまいります。

これらの取り組みには、皆さま方のご理解・ご協力が必要不可欠です。引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びになりますが、日本自動車会議所のますますのご発展と、本日ご出席の皆さまのご健勝・ご多幸を心からお祈り申し上げ、挨拶とさせていただきます。本日はおめでとうございます。



坂口正芳副会長の「乾杯」の発声で懇談・懇親が始まる

## 懇親会場スナッフ



総会懇親会で登壇する役員。左から、ゲルティンガー剛理事、齋藤克巳副会長、佐藤恒治副会長、坂口正芳副会長、豊田章男会長、高田靖久副会長、喜谷辰夫副会長、赤間俊一理事、島崎豊専務理事  
※ご所属は4ページの役員名簿をご参照ください。



左から、赤澤亮正経済産業大臣（衆議院議員）、藤川政人参議院議員、猪口邦子参議院議員、酒井庸行国土交通副大臣（参議院議員）



左から、西村康稔衆議院議員（自動車議員連盟会長）、豊田会長、山際大志郎衆議院議員（自動車議員連盟事務局長）、細田健一衆議院議員



赤澤経産大臣（左）



片山さつき財務大臣（右、参議院議員）



甘利明元衆議院議員（右、元自民党幹事長）



磯崎哲史参議院議員（中央）、金子晃浩自動車総連会長（右）



浜口誠参議院議員（右）



齊藤鉄夫衆議院議員（中央、中道改革連合顧問）、石井啓一衆議院副議長（右）



鎌田実日本自動車研究所所長（左）



久保田秀暢国土交通省大臣官房技術総括審議官（右）



左から、加藤俊行スーパー耐久未来機構専務理事、坂東正明GTアソシエーション社長、桑山晴美スーパー耐久未来機構副理事長



永塚誠一三菱ふそうトラック・バス会長（右、元日本自動車工業会副会長・専務理事）

## 自民党自動車議連が総会・懇談会を開催

# 出席団体が現況や課題などについて説明

## 議連総会では西村康稔衆議院議員が新会長に就任

自民党自動車議員連盟と自動車関係団体との懇談会が4月16日、東京・千代田区のザ・キャピトルホテル東急で開催され、国会議員117人、代理54人の計171人が、また自動車関係団体側からは12団体27人が出席しました。懇談会に先立ち自動車議連の総会が開催され、冒頭、挨拶に立った森英介会長（衆議院議長）が退任する意向を表明しました。後任には西村康稔会長代理（衆議院議員）を指名。新役員については新会長に一任する旨を提案し、満場一致で承認されました。この後、懇談会が開催され、日本自動車会議所の豊田章男会長はじめ自動車関係12団体と意見交換が行われました。

自動車議連の総会は、山際大志郎事務局長（衆議院議員）の司会により議事が進められ、はじめに森会長が挨拶しました。森会長は、「国内市場の活性化に向けては、環境性能割が廃止されるなど一定の進展がありました。自動車を取り巻く環境変化の中で、税制抜本改正は待ったなしの状況と認識しています。そういう大変重要な局面の中、今国会で衆議院議長に就任することになりました」と述べ、議連会長を退任する意向を表明しました。後任に西村会長代理を指名し、また新役員については新会長に一任する旨を提案、会場からの盛大な拍手をもって



就任の挨拶をする西村康稔新会長（写真中央）



森英介前会長



西村康稔新会長



甘利明特別顧問



山際大志郎事務局長

承認されました。

西村新会長は、「環境性能割合は廃止になりましたが、今年はまさに保有時の課税のあり方について大きな論点となる見通しです。是非、一致結束をして自動車産業が発展していくための税制になるよう、力を合わせて取り組んでいきたい」と述べ、今後の自動車税制のあり方に意欲的に取り組む姿勢を強調しました。

議連総会に続き、懇談会が開催されました。出席団体を代表し会議所の豊田会長が挨拶に立ち、初めに、550万人が働く自動車産業を映像で紹介した後、次のように話しました。

「自動車産業は一部の大企業だけで成り立っているわけではなく、部品、整備、販売、物流など実に多くの現場の皆さまに支えられています。本日はそうした各分野を代表する業界団体のトップの方々に出席いただいておりますが、あえて未来の話ではなく、それぞれの現場が抱える足元の課題をお話いただくことにしています。少しずつでも、できることから（課題解決に向けて）始めていくことができればと思っていますので、よろしくお願いいたします」

続いて、日本自動車工業会をはじめとする各団体が、順次、業界の現況や諸課題などについて説明し、支援や要望などを訴えました。この後、意見交換に入り、出席議員から多くの質疑や意見が表明されました。

最後に、甘利明議連特別顧問が、「日本経済を支えている自動車産業に、私はものすごい危機感を抱いています。自動車の形態が大きく変わっていきませんが、クルマをコントロールする分野はAIに強い



懇談会で挨拶をする豊田章男会議所会長

米国が、製造分野は中国が先行していくかもしれません。日本の自動車産業は30年後も世界のトップであり続けることができるのでしょうか。構想力とクラフトマンシップ（細部までこだわり抜いてものづくりに取り組む姿勢や精神性）が連携している自動車産業は、おそらく日本にしかないと思うのですが、それをきちんと継続してやっていかなければ、“上の方”はアメリカに取られ、“下の方”は中国に取られることになりかねません。自動車産業が、これからも日本のものづくりを支える一番の中核の産業形態であり続けていただきたい」と訴えて、懇談会は閉会しました。

【団体側出席者】12団体27人（肩書きは開催当時）  
▽日本自動車会議所＝豊田章男会長、島崎豊専務理事、上田裕之会長補佐、▽日本自動車工業会＝佐藤恒治会長、松永明副会長・専務理事、▽日本自動車

販売協会連合会＝高田靖久会長、佐藤康彦副会長・法規税制委員長、小糸正樹副会長・専務理事、▽全日本トラック協会＝坂本克己最高顧問、重田雅史理事長、▽日本バス協会＝塚田正敏税制対策委員長、石指雅啓理事長、▽全国ハイヤー・タクシー連合会＝伊藤宏副会長兼総務委員長、新田慎二理事長、▽日本自動車部品工業会＝齋藤克巳副会長、尾関明人理事・事務局長、▽日本自動車整備振興会連合会＝島雅之専務理事、永窪方明理事・事務局長、▽日本自動車連盟＝坂口正芳会長、野津真生専務理事、▽全国軽自動車協会連合会＝赤間俊一会長、武田裕介副会長 税制・広報委員長、板崎龍介専務理事、▽日本自動車輸入組合＝ゲルティンガー剛理事長、入野泰一副理事長兼専務理事、▽日本中古自動車販売協会連合会＝塚田長志会長、武藤孝弘専務理事

## 自動車総連とも懇談会開催

# 自動車会議所として初めての意見交換 総連役員など 11 人が出席

日本自動車会議所は4月16日、自動車総連との懇談会を行いました。総連との懇談会は初めて行われ、自民党自動車議連との懇談会終了後に同じ会場のザ・キャピトルホテル東急（東京・千代田区）で開催。総連側からは役員など11人が出席し、意見交換しました。

懇談会では、初めに会議所の豊田章男会長が挨拶し、「以前、自工会会長を務めていた際、こういう場を設けさせていただきました。経営側と従業員側で目線が違うかもしれませんが、自動車産業を支えていくために同じ山を登っているのではないかと考えています。日本に必要な自動車産業を支えるため、限られた時間ではありますが、有意義な話し合いができればと思っています」と話しました。

そのあと総連の金子晃浩会長が挨拶し、「公式な意見交換の場としては初めてであり、大変意義深い位置づけとして臨ませていただいています。社会に貢献したい、日本を良くしたい、自動車産業をもっと良くしたいという思いはわれわれも同じであり、そのためにこのような場で意見交換をしながら具体的な行動につなげていくことができればと思っています」と述べました。

続いて、双方から自動車産業の課題や展望などに



自動車関係団体と意見交換に臨む自動車総連（右側テーブル）

ついて活発な意見交換が行われ、最後に豊田会長が「従業員は会社の繁栄を願い、そして会社は従業員の幸せを願います。われわれ（従業員と会社）が両輪であれば、日本の自動車産業は必ずやこの国、そして世界においても頼りになる存在となりますので、是非とも心をつにしていきたいと思います」と述べて懇談会が終了しました。

豊田章男会議所会長



金子晃浩総連会長



## サーキット来場者の通信環境改善へ実証開始

# SUPER FORMULA Rd.3 九州大会オートポリスで 仮設通信設備を検証

日本自動車会議所は、モータースポーツ観戦時の利便性向上を目的として、サーキット来場者の通信環境改善に向けた実証を今年4月から開始しました。この取り組みの第1弾として、オートポリス（大分県日田市）にて4月25日、26日の両日に開催された「SUPER FORMULA Rd.3 九州大会」において、観客席エリアに仮設通信設備を設置し、来場者が利用するレース動画視聴アプリ等の通信品質向上について検証。通信品質の変化や利用状況を検証し、今後のサーキットにおける通信環境整備や、より快適な観戦体験の実現に向けた検討を行いました。

この取り組みは、会議所が設置するモータースポーツ委員会に参画している関係者による検討のもと、観戦体験の向上と将来的なイベント運営の高度化に向けた基盤整備の一環として実施するものです。今後の追加実証についても検討を進めています。

この実証で得られた結果を踏まえ、大容量通信に対応したサーキット専用ネットワークの構築等も含めた恒常的な通信環境改善に向けた検討を進めます。また、SUPER GTやスーパー耐久、二輪レースなど、他サーキットや他カテゴリーへの展開も視



オートポリスにおけるSUPER FORMULA開催風景

野に入れています。

第2弾の実証については6月5日～7日に富士ス

ピードウェイにて、スーパー耐久シリーズ第3戦時に実施しました。（21ページ参照）

## 楽しみながら学べる体験型交通安全啓発イベント

### 「交通安全 アクション2026」 2日間で約4,000人が来場

#### 4月4日、5日の「会場風景」を写真で紹介

前号で既報のとおり、日本自動車会議所は4月4日、5日の両日、東京・新宿区の「新宿駅西口広場イベントコーナー」で、交通安全の大切さやルールを楽しく学べる体験型交通安全啓発イベント「交通安全 アクション2026」（以下、「アクション2026」）を開催しました。2日間で約4,000人が来場し、趣向を凝らしたステージアトラクションやブースプログラムなどを、来場した多くの皆さんに体験いただきました。今号では、前回ご紹介できなかった「会場風景」を、ブースごとに写真でご紹介いたします。

「アクション2026」は警視庁新宿警察署との共催で、内閣府、国土交通省、警察庁、東京都、警視庁交通部が後援し、会議所の会員団体をはじめ、開催趣旨に賛同する38の団体・企業などが参画して開催されました。「高齢者・幼児／児童を重点対象とした各種アトラクションの体験を通じて交通社会のルールや安全行動の大切さを啓発する」をテーマに、楽しく学べる12の体験型ブースプログラムを用意。交通安全グッズなどがプレゼントされるスタンプラリーも実施し、小さな子どもから高齢者まで多くの来場者で賑わいました。

ステージプログラムでは、警視庁音楽隊のミニコ



ピーボくんファミリーも出演したオープニングセレモニー。マイクを持って話すのは会議所の島崎豊専務理事

ンサートや、警視庁マスコットキャラクターのピーボくんファミリーも出演した交通安全教室・撮影会なども行われ、たくさんの家族連れが参加しまし

た。

日本自動車会議所は、今後もこのようなイベントの開催を通じて、交通安全に寄与してまいります。



新宿交通少年団  
ミニコンサート(4/4(土)のみ)



警視庁音楽隊  
交通安全ミニコンサート(4/5(日)のみ)



ピーボくんファミリーとの撮影会  
(警視庁新宿警察署)



主催者(日本自動車会議所、警視庁新宿警察署)による  
交通安全教室



主催者(日本自動車会議所、警視庁新宿警察署)による  
交通安全標識ビンゴ大会



白バイ展示・交通安全啓発活動  
(警視庁新宿警察署／新宿区)



首都高安全啓発隊<バイク乗車体験>  
(首都高速道路／首都高速道路厚生会)



ナスバギャラリー展 IN 東京  
(自動車事故対策機構<ナスバ>)



ナスバちゃんめりえ  
(自動車事故対策機構<ナスバ>)



てんけんくんぬりえ体験コーナー  
(日本自動車整備振興会連合会)



VICS VR体験  
(道路交通情報通信システムセンター)



交通安全シミュレーター(4/4土のみ)  
(東京都都民安全総合対策本部総合推進部)



交通安全シミュレーター(4/5日)のみ  
(東京都都民安全総合対策本部総合推進部)



交通安全にはまず洗車・きれいなクルマで安全ドライブ  
(自動車用品小売業協会)



電動車いすの安全利用  
(電動車いす安全普及協会)



ゲンチャレく原付免許試験問題にチャレンジ  
(日本二輪車普及安全協会)



子ども安全免許証/リフレクBOX  
(JAF/日本自動車連盟 東京支部)



運動能力年齢診断①  
(日本自動車会議所会員団体合同)



運動能力年齢診断②  
(日本自動車会議所会員団体合同)



生命のメッセージ展  
(全日本トラック協会／いのちのミュージアム)



総合受付・スタンプラリー  
(日本自動車会議所会員団体合同)

## 「交通安全 アクション 2026」開催概要

【日 時】 4月4日(土) 12時00分～17時00分／4月5日(日) 11時00分～16時00分

【場 所】 新宿駅西口広場イベントコーナー (〒160-0023 東京都新宿区西新宿1丁目地先)

【プログラム概要 (カッコ内は出展団体・企業。順不同)】

＜ステージプログラム＞▽新宿交通少年団 ミニコンサート(新宿交通少年団)※4日(土)のみ▽警視庁音楽隊 ミニコンサート(警視庁新宿警察署)※5日(日)のみ▽ピーポくん撮影会(警視庁新宿警察署)▽交通安全教室《児童／高齢者対象》(日本自動車会議所)※参加者には記念品贈呈▽交通標識ビンゴ大会(日本自動車会議所)

＜ブースプログラム＞▽白バイ展示・交通安全啓発活動(警視庁新宿警察署／新宿区)▽首都高安全啓発隊《バイク乗車体験》(首都高速道路㈱、首都高速道路厚生会)▽ナスバギャラリー IN 東京・ナスバちゃんぬりえ、他(自動車事故対策機構〈ナスバ〉)▽てんけんくんぬりえ体験コーナー(日本自動車整備振興会連合会)▽VICS VR体験(道路交通情報通信システムセンター)▽交通安全シミュレータ(東京都都民安全総合対策本部総合推進部)▽交通安全にはまず洗車 きれいなクルマで安全ドライブ(自動車用品小売業協会)▽電動車いすの安全利用(電動車いす安全普及協会)▽ゲンチャレ(日本二輪車普及安全協会)▽子ども安全免許証・反射材効果体験(日本自動車連盟〈JAF〉東京支部)▽運動能力年齢診断①②(協力団体 共同ブース)▽生命のメッセージ展(全日本トラック協会／いのちのミュージアム)

＜その他＞▽スタンプラリー

【主催・後援および参画団体・企業一覧】

【主催】 一般社団法人 日本自動車会議所、警視庁新宿警察署

【後援】 内閣府、国土交通省、警察庁、東京都、警視庁交通部

【協力】 (順不同) 東京都都民安全総合対策本部総合推進部、新宿区みどり土木部、(独)自動車事故対策機構、(一社)日本自動車車体工業会、(一社)日本自動車タイヤ協会、(一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)日本中古自動車販売協会連合会、(一社)日本自動車整備振興会連合会、(一社)全国ハイヤー・タクシー連合会、(一社)全国自家用自動車協会、(一社)全日本指定自動車教習所協会連合会、(一社)日本自動車用品・部品アフターマーケット振興会、(一社)全国レンタカー協会、(一社)日本二輪車普及安全協会、(一社)日本自動車運行管理協会、(一社)自動車用品小売業協会、(一財)日本自動車研究所、(一財)全日本交通安全協会、(一社)日本自動車連盟東京支部、(一社)全国軽自動車協会連合会、(一社)愛知県自動車会議所、(一社)神奈川県自動車会議所、(公財)日本自動車教育振興財団、(公財)東京都道路整備保全公社、東京都自動車会議所、電動車いす安全普及協会、首都高速道路㈱、(一財)首都高速道路厚生会、(一財)関東陸運振興センター、(一財)道路交通情報通信システムセンター、(公社)全日本トラック協会、イーティエフ㈱、東京企画装飾㈱、(株)ジェイアール東日本企画、日本自動車輸入組合、トヨタ自動車㈱、日産自動車㈱、本田技研工業㈱＜計 38 団体・企業＞

## 「モビリティ社会基盤共創プロジェクト」(COMIT)

### キックオフミーティングを開催

#### 「自動車登録簡素化」「健康運転寿命延伸」の2事業に取り組む

日本自動車会議所は5月15日、東京・港区の日本自動車会館「くるまプラザ」会議室で、「モビリティ社会基盤共創プロジェクト」(略称：COMIT プロジェクト)のキックオフミーティングを開催し、プロジェクト関係者総勢約40人が出席しました。

本プロジェクトは、すでに会議所理事会において今年度事業計画として承認されており、社会的有益性等が認められ、トヨタ・モビリティ基金からの助成を受けて実施されます。



トヨタ・モビリティ基金  
松田進理事長代行



日本自動車会議所  
島崎豊専務理事



トヨタ・コニック  
山下義行代表取締役

プロジェクト概要は、いずれもマイナンバーカードを活用し、①自動車登録のOSS（ワンストップサービス）展開後も、いまだに書類・印鑑・手作業が残っている登録手続きをできる限り簡素化、②ドライバーの疾病リスクを早期発見し、安全運転の継続・支援につなげる仕組みを開発し、社会全体として健康運転寿命の延伸（マイナ保険証とも連携）を目指すものです。

キックオフミーティングでは、冒頭挨拶にて、日本自動車会議所の畠山太作プロジェクトリーダーから、会議所の紹介に続いて、プロジェクトの目的



キックオフミーティング全体の様子

は実証実験ではなく、実際の社会実装につなげていくこと等について述べられた後、渡邊弘毅実証・構想推進責任者から本プロジェクトの全体名称を「モビリティ社会基盤共創プロジェクト」とすることや組織体制について説明が行われました。

続いて「自動車登録簡素化」について西原俊介プロダクトマネージャー、「健康運転寿命延伸」について上田尋一プロジェクトマネージャーから概要説明とともに、一緒にプロジェクトを進めていくパートナーの出席者の紹介がありました。

最後に、プロジェクトの全体方針・計画の決定を行うステアリングコミティーのメンバーである会議所の島崎豊専務理事、トヨタ・コニックの山下義行社長、トヨタ・モビリティ基金の松田進理事長代行より、それぞれ期待のメッセージが語られ、ミーティングは閉会となりました。

今後、会議所は、3年を目途としているプロジェクト期間を経て、2つの事業が自立化して社会実装されることを目指し、活動を推進していきます。

#### モビリティ社会基盤共創プロジェクト

Co-creation Mobility Infrastructure Transformation

共創  
Co-creation

社会基盤  
Mobility  
Infrastructure

変革  
Transformation

[略称]

#### COMIT PROJECT

ーモビリティを起点に、官民・産業を超えた共創を実装するプロジェクトー

① 自動車登録簡素化プロジェクト

② 健康運転寿命延伸プロジェクト

# 「地政学と日本の大戦略」をテーマに国際情勢を解説 外交政策研究所代表 宮家 邦彦氏が講演

## 第314回会員研修会開催

日本自動車会議所は5月28日、東京・港区の日本自動車会館「くるまプラザ」会議室において、第314回会員研修会を開催しました。当日は会員を中心に48人（うちオンライン4人）が出席しました。今回は「地政学と日本の大戦略」をテーマに、外交政策研究所代表の宮家邦彦氏を講師にお迎えし、ご講演をいただきました。講演では、ウクライナ情勢や中東の不安定化、米国の政策変化などを背景とした国際秩序の揺らぎについて説明があり、こうした動きが日本の産業やサプライチェーン、経済安全保障に大きな影響を及ぼしていると指摘しました。



宮家 邦彦氏

冒頭、宮家氏は地政学について、単なる学問ではなく、歴史や地理、軍事的視点から国家が直面してきた脅威を考察するための思考法であり、将来を見通す上で重要な枠組みであると説明しました。

続いて、欧州・中東・インド太平洋の3つの戦域が相互に連動する「1つのシアター」として捉える必要性を示し、米中対立やロシア・イラン・中国の動向などを踏まえ、日本としての戦略的対応の重要性を強調しました。

また、国際情勢を静的に捉えるのではなく、歴史



の流れの中で把握することの重要性にも言及し、過去の事例から仮説を立て検証する姿勢が大戦略の理解に不可欠であると述べました。

さらに、戦後約80年続いた国際秩序が転換期を迎え、民族主義やポピュリズムの台頭といったパラダイムシフトが進んでいるとの見方を提示するとともに、日本にとっては新たな国際ルール形成に関与する機会でもあると指摘しました。

講演後の質疑応答では、自動車産業とエネルギー政策の関係や各国との外交関係などについて活発な

議論が行われました。電気自動車の普及や産業競争力の観点から、日本における安定的な電力供給の重要性が指摘され、特に原子力発電の再開の必要性について言及がありました。

このほか、歴史学習の重要性や日韓・日中関係、インドの外交姿勢などについても議論が交わされ、参加者の関心の高さがうかがえました。

国際情勢の不確実性が高まる中、地政学的視点を踏まえた戦略的思考の重要性が改めて共有され、有意義な研修会となりました。

## 「不正改造車を排除する運動」

## 安全・安心なクルマ社会形成に向けて 6月の強化月間に多様な取り組みを展開

国土交通省・不正改造防止推進協議会

国土交通省と、日本自動車会議所など関係33団体で構成する不正改造防止推進協議会では、『不正改造車を排除する運動』として、不正改造を「しない」・「させない」ための啓発活動を行っています。その一環として、各地方運輸局等が定める6月の「強化月間」に、次の3項目を中心に幅広い層に向けた多様な訴求活動を展開しました。国交省では、安全・安心なクルマ社会形成のため、引き続き徹底した取り組みを行っていくとしています。

1. 不正改造を「しない」・「させない」ための啓発活動

- ・ポスター及びチラシ等の貼付、配布及びSNS等への掲載等により、積極的に広報を実施。
- ・全国の子供バス事業者の協力による、バス車両前面への広報横断幕の掲示。
- ・タイヤ等の不正改造や点検整備未実施が大きな事故に繋がることの周知。

## 2. 不正改造車を排除するための街頭検査の実施

警察機関、独立行政法人自動車技術総合機構、軽自動車検査協会等と連携した街頭検査を全国各地で実施し、違反車両に対して整備命令を発令。

### 3. 不正改造車に関する情報収集等

運輸支局等に「不正改造車・迷惑黒煙情報提供窓口」を設置し、通報があった情報をもとに、不正改造車ユーザーへ改善・報告を求める。



# 大容量データ通信に対応したサーキット向けネットワーク実証を開始

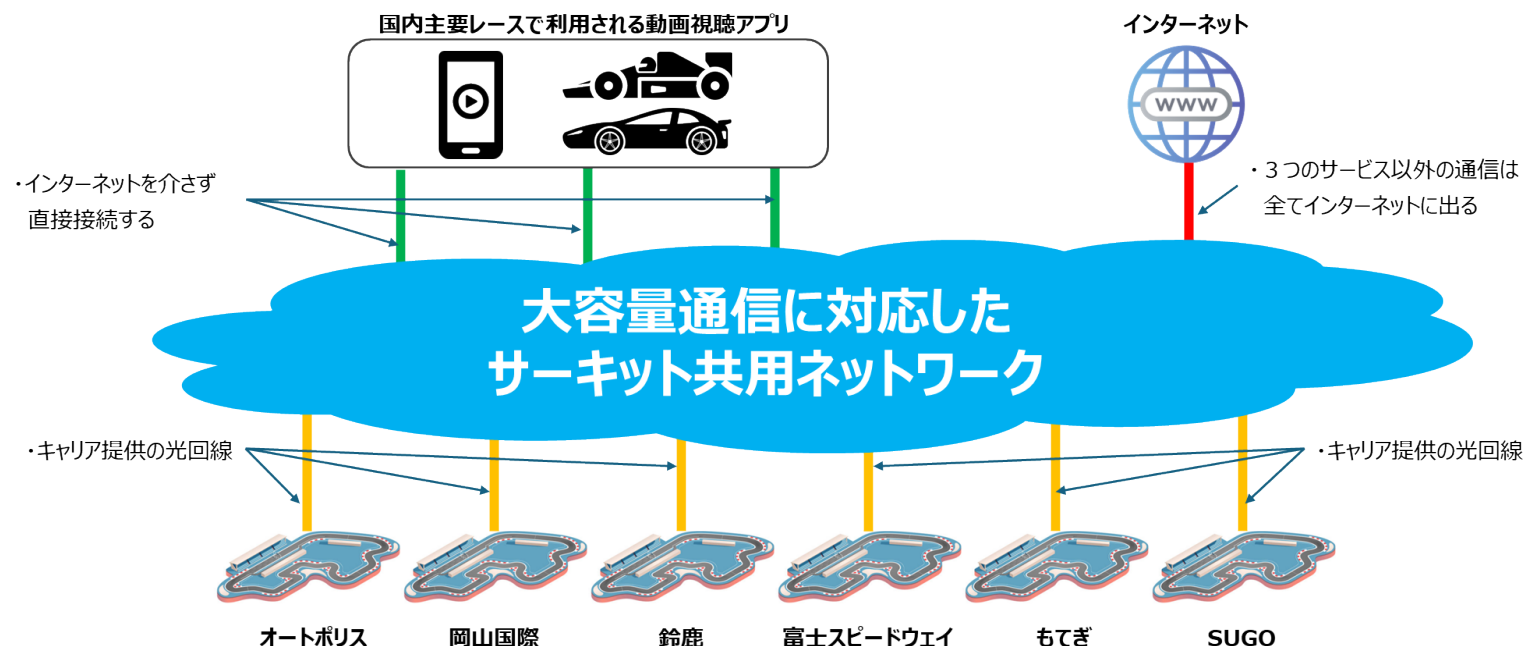
## スーパー耐久シリーズ第3戦 富士24時間レースで通信品質を検証

日本自動車会議所は、モータースポーツ業界におけるデジタル環境の強化による、利用者の方々の利便性向上を目的に、お客様（来場者）・チーム（エンタラント）・メディアなどによって生じる大容量データ通信に対応できるネットワークの第2弾の実証実験を行いました。

対象は、富士スピードウェイ（静岡県小山町）で6月5日～7日まで開催された「スーパー耐久シリーズ第3戦富士24時間レース」で、チーム（エンタラント）における走行車両データの伝送やメディアセンターおよびメディアラウンジにおけるWi-Fi通信、サーキット内の映像配信効率化などを検証し、将来的なネットワーク整備の方向性を探りました。

今回の実証では、ウーブン・バイ・トヨタが保有する大容量通信ネットワークを一時的に活用し、レース開催時に急増するデータ通信を安定して処理できるかを検証しました。

また、複数サーキットがネットワークを共用することで、個別に設備を整えるよりもコストを抑えられる仕組みづくりも視野に入れています。本取組は、日本自動車会議所モータースポーツ委員会と国内主



サーキット共用ネットワーク構想イメージ

要サーキットが連携し、業界全体の通信インフラを最適化するプロジェクトの一環として実施するものです。

今回の実証結果を踏まえ、チーム・メディア向けだけではなく、お客様（来場者）・運営など幅広い利用者が快適に使える通信環境への拡大を検討しま

す。また、複数サーキットがネットワークを共用することでコストを抑えられる仕組みづくりや将来的な広域ネットワークの構築についても検討を進めます。

今後の実証については、決定次第発表してまいります。

## 「自転車安全利用TOKYOキャンペーン in 新宿通り」

### 日本自動車会議所も協力団体として参加

#### 新宿警察署・新宿交通安全協会

警視庁新宿警察署と新宿交通安全協会は5月24日、東京・新宿区の新宿通りにおいて、交通安全イベント「自転車安全利用 TOKYO キャンペーン in 新宿通り」を開催しました。当日は多くの来場者でにぎわい、交通安全への関心の高さがうかがえました。日本自動車会議所は協力団体として参加し、事故防止に欠かせない「認知・判断・行動」の力を楽しく測定できる俊敏性測定器「クイックアーム」を出展＝写真＝。子どもから大人まで幅広い世代の方々にご参加いただき、交通安全を身近に考えていただく機会となりました。

会場は、JR 新宿駅東口から伊勢丹前までの新宿通りを一時的に歩行者専用道路として開放。新宿駅東口広場前に設けられたメイン会場では、新宿交通少年団による元気な鼓笛演奏でイベントが幕を開け、続いてプロのスタントマンによる「スケアード・ストレイト交通安全教室」が行われました。また、歩行者専用となった通りでは、パトカーや白バイの展示をはじめ、誤発進抑制システム搭載車の乗車体験、シニアカーの試乗体験など、多彩なプログラムを展開。来場者が楽しみながら交通安全について学べる内容となりました。

「スケアード・ストレイト交通安全教室」では、自転車と自動車の事故を再現し、事故の危険性や交通ルールの重要性を分かりやすく伝え、来場者に強い印象を残しました。

警視庁のデータによると、東京都内における自転車事故死者の約6割以上は頭部に致命傷を負っており、ヘルメット非着用時の致死率は着用時と比べて約2倍以上高くなるとされています。また、警察庁の資料でも、自転車事故で亡くなった人の約半数が頭部に致命



## 日本自動車会議所人事

### 7月1日付で 後藤政由事務局長 兼企画部長が就任

日本自動車会議所は、7月1日付で(株)ホンダアクセス ICT 部デジタル戦略課エキスパートエンジニアの後藤政由氏が事務局長兼企画部長に就任する人事を行いました。山下功前事務局長兼企画部長は、同日付で本田技研工業(株)に帰任しました。

後藤 政由（ごとう・まさよし）氏  
＜略歴＞



後藤 政由氏

1984年4月、(株)ホンダアクセスの前身である(株)本田用品技研に入社。2011年4月本田技研工業(株)に転籍しタイ駐在主任研究員、2016年4月インド駐在主任技師などを歴任し、2018年7月(株)ホンダアクセス開発部主任研究員、2025年4月 ICT 部デジタル戦略課エキスパートエンジニアを経て、2026年7月から会議所事務局長兼企画部長に就任。宮崎県出身、61歳。

傷を負っており、頭部の保護が極めて重要であることが示されています。

自転車利用者に対してはヘルメット着用が努力義務化されており、自転車に乗る際は、万が一の事故から命を守るためにも、ヘルメットは着用しましょう。

## 「飲酒運転させないTOKYOキャンペーン」

### キックオフイベント開催 ゲストにタレントの原口あきまささん

東京都・警視庁交通部・東京都交通安全協会

東京都は7月1日、東京・港区の「東京ミッドタウン」で、警視庁交通部、東京都交通安全協会との共催により「飲酒運転させないTOKYOキャンペーン」のキックオフイベントを開催し、飲酒運転の根絶を訴えました。東京都では「夏季は飲酒の機会が増え、飲酒運転に起因する交通事故の発生が懸念される」として、毎年7月1日～7日までの7日間に同キャンペーンを展開しています。

初日のイベントには、タレントの原口あきまささんがゲストとして参加。地下1階アトリウム内に設けた特設ステージで、東京都の防犯マスコットキャラクター「みまもりいぬ」、警視庁のマスコットキャラクター「ピーポくん」とともに、笑いも交えながら交通安全の大切さを訴えました。また、警視庁の若手警察官と共演した交通安全教室も開催され、数多くの物まね芸を披露して会場を盛り上げていました。



東京都では、キャンペーン期間中はホームページやSNSでの発信のほか、飲食店、駐車場などでのチラシ配布やステッカー・シールの掲示、街頭ビジョンでの広報活動などにより「飲酒運転による重大交通事故の抑止を図っていく」としています。日本自動車会議所もキャンペーンの趣旨に賛同し、飲酒運転根絶に向けた啓発活動を展開しています。

## 令和8年「春の叙勲」

### 日本自動車会議所関係者5氏が受章

令和8年春の叙勲で、日本自動車会議所の会員団体から関係者5氏が晴れの榮譽に輝かれました。※役職は4月29日の発令当時のものです。

#### 【叙勲】

◇旭日重光章

・伊東 孝紳氏：元本田技研工業社長

◇旭日中綬章

・尾堂 真一氏：元日本自動車部品工業会会長、元日本特殊陶業会長兼社長（現取締役相談役）

◇旭日小綬章

・石山 稔氏：宮城県自動車会議所会長

◇瑞宝中綬章

・郡寫 孝氏：元自動車リサイクル促進センター理事長

◇瑞宝双光章

・藤田 裕隆氏：元大阪自動車会議所理事

## 通常総会と懇親会を開催

### 自動車関係諸税の簡素化と軽減などに取り組む

#### 東京都自動車会議所

東京都自動車会議所（中川雅治会長）は6月24日、東京都新宿区の京王プラザホテルで第52回通常総会を開催しました＝写真。令和7年度事業報告と収支決算報告、同8年度事業計画・収支予算、任期満了に伴う役員人事の3議案を審

議し、いずれも原案通り承認されました。

中川会長は通常総会の冒頭、「昨年の今頃は、トランプ関税に関わる日米交渉の行く末が自動車関連業界にとって大きな懸念材料でしたが、現在はイラン情勢が気がかり。一刻も

早く、ホルムズ海峡が解放されて原油の輸入をはじめとする日本の経済活動が正常化することを願うばかりです」と話しました。さらに、自動車関連業界の動向について「DX（デジタル・トランスフォーメーション）、GX（グリーン・トラ



ンスフォーメーション) が進行する一方、依然としてドライバーや整備士の人材難が課題」と指摘。そのうえで「会員の皆さまが抱える課題の解決に向け、皆さまと一緒に考え、活動していく所存です」と述べました。

続いて、令和7年度の事業報告と決算内容について事務局

が説明。監事による監査報告を受け、異議なく承認されました。令和8年度事業計画では、①自動車関係諸税の簡素化と軽減を訴求②自動車分野のカーボンニュートラルの実現③交通安全の徹底④マイナンバーカードを活用した自動車登録の簡素化と健康運転寿命の延伸を図るプロジェクトへの協力—という4つの重点項目が承認されました。

このほかに組織基盤の強化に向け、会員の増加に取り組むことや、東京・上野の辨天堂境内に建立されている「東京自動車三十年(みそじ)会記念碑」法要を行うなど文化活動を継続していく方針も示しました。また、任期満了に伴う役員選任案も審議、全員が承認されました。

通常総会終了後は、懇親会を開催。会員に加え、自民党所属の都議会議員、東京都環境局幹部ら来賓も併せて約100人が参加、和やかな談笑の輪があらこちらで見られました。

〔東京都自動車会議所〕

## 日本自動車会館「くるまプラザ」

### 改修工事のため 2027年1月末まで休業

日本自動車会館「くるまプラザ」は、改修工事のため2026年7月1日～2027年1月31日まで休業いたします。「くるまプラザ」全体の改修工事となりますので、貸会議室だけでなく、資料やニュースリリースなどを投入・配布するボックス(いわゆる投げ込みボックス)もご利用いただけません。

「くるまプラザ」の管理・運営を行っているトヨタ不動産では、「貸会議室の予約開始時期につきましては、工事の進捗を確認のうえ、改めてご案内させていただきます。改修後も、これまで以上に快適にご利用いただける施設を目指してまいります」としています。

## フェアレディ Z など日産の名車を展示

### 若手オーナーらが「技術の日産」を熱く語る

#### 「CARS and COFFEE」第3回を開催

JAF メディアワークスが主催し、日本自動車会議所が後援するイベント「CARS and COFFEE」の第3回が5月19日、日本自動車会館のメインエントランスで開催されました。クルマのある暮らしを広める活動の一環として行われ、第1回のトヨタ車、第2回のホンダ車に続き、第3回となる今回は日産車。自動車ライターの嶋田智之氏と、多方面で活躍する

瀬イオナ氏をMCに迎え、若手オーナー4氏に「『日産車』～若者が選ぶ、技術の日産の魅力～」をテーマに熱く語っていただきました。

エントランスには最新のフェアレディ Z のほか、セドリックやエクストレイルなど新旧の名車が展示され、多くの人が足を止めてクルマに見入ったり、トークに耳を傾けたりして



いました。「CARS and COFFEE」は若手オーナーに焦点を当てたファンイベントで、今回は時代を超えて愛される日産車の魅力や、若い世代ならではのカーライフについてお話しいただきました。

## 日本自動車会議所会員（2026年7月1日現在）＝団体会員 92、順不同＝

一般社団法人 日本自動車工業会  
 一般社団法人 日本自動車部品工業会  
 一般社団法人 日本自動車体工業会  
 一般社団法人 日本自動車タイヤ協会  
 一般社団法人 日本自動車販売協会連合会  
 いすゞ自動車販売協会  
 トヨタ自動車販売協会  
 日産自動車販売協会  
 U D トラック販売協会  
 日野自動車販売協会  
 三菱自動車販売協会  
 三菱ふそう自動車販売協会  
 全国スバル自動車販売協会  
 ダイハツ自動車販売協会  
 全国マツダ販売店協会  
 スズキ自動車販売店協会  
 ホンダ自動車販売店協会  
 一般社団法人 全国軽自動車協会連合会  
 日本自動車輸入組合  
 一般社団法人 日本中古自動車販売協会連合会  
 一般社団法人 日本自動車整備振興会連合会  
 一般社団法人 日本自動車機械工具協会  
 公益社団法人 全日本トラック協会

公益社団法人 全国通運連盟  
 公益社団法人 日本バス協会  
 一般社団法人 全国ハイヤー・タクシー連合会  
 一般社団法人 全国自家用自動車協会  
 一般社団法人 日本損害保険協会  
 石油連盟  
 一般社団法人 全日本指定自動車教習所協会連合会  
 一般社団法人 全国自動車標板協議会  
 一般財団法人 自動車検査登録情報協会  
 一般社団法人 全国レンタカー協会  
 一般社団法人 日本自動車リース協会連合会  
 一般財団法人 日本モーターサイクルスポーツ協会  
 一般社団法人 自動車公正取引協議会  
 全国自動車検査登録印紙売捌人協議会  
 一般財団法人 関東陸運振興センター  
 一般社団法人 東京都トラック協会  
 一般社団法人 神奈川県トラック協会  
 一般社団法人 日本道路建設業協会  
 一般社団法人 日本ゴム工業会  
 一般社団法人 日本塗料工業会  
 一般社団法人 板硝子協会  
 日本自動車車体整備協同組合連合会  
 一般社団法人 日本交通科学学会  
 一般社団法人 日本陸送協会

一般社団法人 日本二輪車普及安全協会  
 一般財団法人 日本自動車研究所  
 一般社団法人 日本自動車機械器具工業会  
 特定非営利活動法人 ITS Japan  
 公益社団法人 自動車技術会  
 公益財団法人 自動車リサイクル促進センター  
 一般社団法人 日本ガス協会  
 一般社団法人 日本自動車運行管理協会  
 一般社団法人 日本自動車用品・部品アフターマーケット振興会  
 一般社団法人 自動車再資源化協力機構  
 一般社団法人 自動車用品小売業協会  
 一般社団法人 日本オートオークション協議会  
 日本中古車輸出業協同組合  
 全国オートバイ協同組合連合会  
 一般社団法人 日中投資促進機構  
 一般財団法人 日本自動車査定協会  
 一般財団法人 全日本交通安全協会  
 公益財団法人 日本自動車教育振興財団  
 全日本自動車部品卸商協同組合  
 一般社団法人 日本自動車購入協会  
 一般社団法人 日本自動車連盟  
 一般社団法人 スーパー耐久未来機構  
 一般社団法人 日本自動車車体補修協会  
 特定非営利法人 日本自動車レース工業会

一般社団法人 青森県自動車団体連合会  
 一般社団法人 岩手県自動車会議所  
 一般社団法人 宮城県自動車会議所  
 一般財団法人 秋田県全自動車協会  
 山形県自動車団体連合会  
 一般財団法人 福島県自動車会議所  
 東京都自動車会議所  
 一般社団法人 神奈川県自動車会議所  
 一般社団法人 静岡県自動車会議所  
 一般社団法人 愛知県自動車会議所  
 一般社団法人 岐阜県自動車会議所  
 一般社団法人 三重県自動車会議所  
 一般社団法人 富山県自動車会議所  
 一般社団法人 石川県自動車会議所  
 一般社団法人 福井県自動車会議所  
 一般社団法人 大阪自動車会議所  
 一般社団法人 徳島県自動車会議所  
 一般社団法人 香川県自動車会議所  
 愛媛県自動車会議所  
 高知県自動車会議所  
 一般財団法人 大分県自動車会議所  
 （ほかに企業会員 95、推薦会員 1）

[企業会員の一覧はこちらから](#)

## 自動車会議所ニュース

2026



No.967

発行所



一般社団法人 日本自動車会議所  
 Automobile Business & Culture Association of Japan

発行人 島崎 豊 編集人 田村里志

〒105-0012 東京都港区芝大門 1-1-30  
 日本自動車会館15階

電話 03 (3578) 3880  
 FAX 03 (3578) 3883  
 URL <https://www.aba-j.or.jp>